様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年６月２８日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：１９６１１０１０
研究課題名（和文）平和博物館の国際ネットワーキング促進に関する基礎的研究
研究課題名（英文）The fundamental study on developing for networking of International Museums for World Peace

研究代表者
桂　良太郎（KATSURA RYOTARO）
立命館大学・国際関係学部・教授
研究者番号：50214359

研究成果の概要（和文）：『平和博物館の国際ネットワーキング促進に関する基礎的研究』
本研究は、まず平和博物館同士の国際ネットワーキングなあり方を検討することによって、第１に、博物館にかかわる「博物館ネットワーキングの普遍的な理論の構築」に寄与すること、第２に、平和博物館に対する多様な社会的ニーズに応えるための連携のあり方について検討すること、そして第３に、21 世紀にふさわしい平和博物館のあり方を提言することにある。そのための方法として、世界の平和博物館情報ネットのための CD-ROM の開発を目指している。

研究成果の概要（英文）：“The fundamental study on developing for networking of International Museums for World Peace”
The aim of this study is to develop international networking between museums for world peace. For the purpose of this study, we firstly tried to study about what is the universal theory on networking. Secondly, we are concerned with a model of networking between museums for fitting social needs and various expectations. Lastly, we are trying to propose some exemplification or model of 21st century museums for world peace by making with CD-ROM on for getting up-to date information of each museum.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：国際福祉論、アジアの家族福祉政策、国際平和学
科研費の分科・細目：博物館学、社会学・社会福祉学、社会学・社会学
キーワード：博物館学、平和博物館、国際ﾈｯﾄﾜｰｷﾝｸﾞ、平和学、平和教育

１．研究開始当初の背景
研究代表者(桂良太郎)は、立命館大学国際関係学部教授として国際協力論、アジアの社会福祉論等を担当するとともに、2006 年 4 月より同大学国際平和ミュージアム副館長職を兼務していた。2008 年に第 6 回国際平和博

物館会議を広島平和記念資料館と共同で開催するのを機転に、世界の平和博物館情報ネットワーキングに関する情報ネットワークトのシステム構築の要請が生まれ、本基盤研究応募の背景となった。

２．研究の目的

本研究の目的は、国際的な平和博物館同士のネットワーキングのあり方を検討するとともに、1､博物館全体に通底する｢博物館ネットワーキングの普遍的な理論の構築｣に寄与すること、2.平和博物館に対する多様な社会的ニーズに応えるための連携のあり方を検討すること､3.21 世紀にふさわしい平和博物館のあり方(モデル)を提言することにある。

３．研究の方法

2007 年度は内外の研究文献および資料の収集、分析、翻訳作業に加え、フィールドワークの実施を行う。欧米地域とアジア他地域の主要な博物館の実情を把握しながら、国内の平和博物館の実態を整理する。

2008 年度は、前半は、内外の平和博物館のフィールドワークを継続調査するとともに、第 6 回国際平和博物館会議の準備作業を行う。後半は本国際会議開催を成功させるとともに、内外の平和博物館情報ネットワーキングの CD－ROM の試作を会議にて披露する。

４．研究成果

要旨

2009 年度は世界の平和博物館ネットワーキングの CD-ROM の開発成果を公表するとともに､21 世紀にふさわしい｢平和ミュージアム｣のあり方に関する研究をまとめる。

研究報告書としての CD-ROM の作成と、世界の平和博物館ダイレクトリー（｢MUSEUM FOR PEACE WORLDWIDE｣）を発行した。本研究は基礎的研究だけに止まらず、第 6 回国際平和博物館会議を成功裡に導くことができたことは大きな研究成果であるといえる。また本研究成果は、2010 年度科研『平和博物館ネットワーキング促進のための応用的研究』へと引き継がれ、目下 CD-ROM による世界の平和博物館ネットワーキングの主要な課題である URL による動画アクセス開発と将来的には日本語による世界の平和博物館ネットの基本情報収集源としての役割を担うためのシステム開発の研究を行っているところである。

具体的な成果について

〈2007 年度〉

内外の研究文献および資料収集と分析を行い、ﾈｯﾄﾜｰｷﾝｸﾞにかかわる理論的枠組みの検討を行う。特にネットワーキング論に関する社会学的な準拠枠として、社会科学分野での社会的ネットワーク論の応用は、社会関係を定量化する試みである社会測定法（ソシオメトリー）に端を発する。マーク・グｒノヴェッターに代表される学者たちは社会的ネットワーク論を拡張し、今日では社会科学の分野において様々な現象を説明する手助けとなっているが本研究の博物館ネットワーキングにおいては、これまでの社会学的な準拠枠からヒントを得ながら、あらたなネットワーキングの基本的枠組みの検討を行った。その結果①知り合う(交流)②助け合う(協働)③創りあう（創造）の 3 つの段階への移行過程がネットワーキングにおいて想定されるものとしてとらえることにした。ただしその移行過程も直接的または直進的なものではなく、往復をくりかえしながら進展していくいった間接的、反復的（または流動的）なダイナミックスな過程として発展していくものとして捉えることにした。

一方 2008 年開催予定の「第 6 回国際平和博物館会議」での世界の平和博物館の紹介パネルおよび CD-ROM によるネットワーキングの中間成果物の作成準備を行い、内外の約 80~90 件の平和博物館を入力することができた。国内の博物館に関しては、ウエッブサイトをもっていない館もあり、電話等ので聞き取り調査や実際にいくつかの博物館へ出向き、多くの有益な情報を入手することができた。

〈2008 年度〉

「第 6 回国際平和博物館会議」(2008 年 10 月 6 日から 10 日)を大成功に導くことができた。この国際会議は本研究成果を内外の博物館関係者に披露し、そこでの成果をもとにより、充実したネットワーキング構築にむけた課題を展望を得ることが目的であった。本会議の成果は、安齋育郎博士による報告書や多くの印刷物として出版されている。主な本研究とかかわる研究成果としては、まず①知り合う（交流）の段階での成果が挙げられる。内外の平和博物館関係者以外に一般市民や学生を入れると延べ 3000 人以上の人々がこの国際会議に参集したことになる。10 月 6 日から 8 日は立命館大学国際平和ミュージアムにて基調講演、分科会、記念シンポジウム等が開催され、10 月 9 日は、京都造形芸術大学にて「平和創造における芸術の役割」というテーマ記念講演、パネルディスカッション等が行われた。10 月 10 日は広島平和記念資料館にて、アジアや欧米、アフリカの２４カ国・地域の平和博物館関係者や研究者、非政府組織（ＮＧＯ）の代表が集い、「核兵器廃絶に向けた平和博物館の役割」などが議論された。会場となった原爆資料館は１９５５年の開館から一貫して被爆の惨状と核兵器廃絶の願いを展示を通して訴えてきたところで、９４年のリニューアルから１４年が経過し、展示の見直しが検討されている。内外からの参加者からこの資料館への提言が多くなされ、多くの研究的成果を得ることができた。主な研究成果を箇条書きで整理すると下

記のようなものが本研究成果であろう。

- 各平和博物館の活動状況が紹介された。
- 平和博物館が現代の戦争・紛争をどう伝えたかが論議された。
- どのようにすれば戦争博物館を平和博物館に変えられるかについての論議がなされた。
- 平和教育における平和博物館の役割や活用方法についての情報交換がなされた。
- メディアの活用についても話し合われた。
- 文化芸術がはたす平和構築への役割が注目された。
- CD-ROM による、世界の平和博物館情報を URL 等の活用で同時に情報を交換するシステムの重要性が話し合われた。

以上が本研究に関わる、第 6 回国際平和博物館会議での成果である。

〈2009 年度〉

21 世紀にふさわしい「平和博物館」のあり方をテーマにこれまでの研究成果をまとめるとともに、重要な研究成果である世界の平和博物館情報ネット(仮称)の CD-ROM 製作にあてる。一方第 6 回国際平和博物館会議に参加できなかった、アフリカおよび中東地域の平和博物館関係者との直接的なﾈｯﾄﾜｰｷﾝｸﾞ構築のため、研究代表者である桂は、2009 年 11 月より 12 月にかけて各国の平和博物館関係者と面談し、第 7 回国際平和博物館会議（2013 年オランダのハーグにて開催予定）への参加を呼びかけた。アフリカおよび中東の博物館訪問(フィールワーク)の成果は下記の諸点として挙げられる。

1) 南アフリカ/ケープタウン
　・デズモンド･ﾂﾂ大司教財団
　・ロビン(ロベン)島博物館
2) 南アフリカ/ヨハネスブルク
　・ヘクター･ピーターソン博物館
3) タンザニヤ/　ダル・サラーム
　・タンザニヤ国立博物館
4) ケニヤ/ ナイロビ
　・アフリカ博物館国際委員会
5) エジプト/　カイロ
　・エジプト国立歴史博物館
6) イスラエル/ エルサレム
　・ヤダ･ヴァッシェム(ホロコーストミュージアム)

研究成果としては、上記の博物館訪問によってアフリカ地域の博物館ネットの中心的機関でもある、ケニヤのアフリカ博物館委員会の代表者と会えたことにより、全アフリカ博物館ネットを開拓できたことにある。またパレスチナ紛争の中心地であるイスラエル訪問はこれまでのアジアでの平和博物館研究に加え、3 大宗教のはたす平和構築のあり方の再考へのおおきなきっかけづくりに貢献した旅となった。特にイスラエルのホロコーストミュージアムが大きく戦争博物館から平和構築にむけた動きを知ることができたことは大きな成果でもあった。

一方においては、山根和代博士は安齋育郎博士の代理として、2011 年 3 月バルセロナにて開催される国際平和博物館会議準備にむけた諸会議に参加すべくその準備にあたる。すでにオランダのハーグにて世界の平和博物館ネットの事務局開設とそれを記念した第 7 回国際平和博物館会議にむけて、本研究成果の中心的存在でもある、CD-ROM による情報ネットの完成が益々必要となってきた。

本研究はあくまで世界の平和博物館ネットワーキング構築にむけた基礎的研究の一貫として CD-ROM というあたらしいメディアによる世界の情報ネットワーキング確立のための作業に主眼をおいてきたが、2010 年の科研基礎研究（C）の「平和博物館の国際ネットワーキング促進に関する応用的研究」（すでに申請受託許可され）として、目下第２ステップの研究にむけて進行中である。応用的研究においては、まず CD－ROM の完成とその研究成果をスペインのバルセロナで開催される第 7 回国際平和博物館会議にて発表し、内外の平和博物館同士が、より知り合い〈交流〉、情報をおたがいに共有しながら、たすけう（協働）そして世界の平和構築にむけて、あたらしい平和文化の創造に役立つことを最終研究成果として目指しているところである。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

①桂　良太郎
「国際福祉と平和研究・教育の重要性についてーあらたな平和･福祉社会ﾊﾟﾗﾀﾞｲﾑﾓﾃﾞﾙを求めてー」、『立命館平和研究』-立命館大学国際平和ミュージアム紀要―、第 8 号、pp.11-15、2007 年　査読有

②桂良太郎･安齋育郎･山根和代
「調査報告『世界の平和博物館のリストと研究文献について』」、『立命館平和研究』、第 9 号、pp.91-96 (平成 19 年度科研(中間)報告書)、2008 年　査読有

③桂良太郎･安齋育郎･山根和代
CD-ROM 『世界の平和博物館－Museums for Peace in the World』（第 6 回国際平和博物館会議プレゼンテーション用 CD-ROM)（同科研成果物）2008 年　査読無

④安齋育郎･桂良太郎･山根和代他
『第 6 回国際平和博物館会議報告書』第 6 回国際平和博物館会議実行委員会 (和文及び英文あり)、

2009 年　303 頁　査読無
⑤安齋育郎
「第 6 回国際平和博物館会議の特徴と成果について」立命館平和研究(立命館大学国際平和ﾐｭｰｼﾞｱﾑ紀要) 第１０号、2009 年、pp95-98　査読有
⑥安齋育郎
「平和概念の発展」、日本の科学者、Vol。44No。8、2009 年、pp4-9　査読無

〔学会発表〕（計 4 件）
①山根　和代
“How Can We Use “Museum for Peace” for Peace Education?”　Moving beyond the War Memorial Museum World Civic Forum、2009年5月7日、韓国COEX Convention Center
②山根　和代
“Museum for Peace in Japan”　International Network of Museums for Peace Board Meeting、2009年6月19-21日、国際赤十字博物館（ジュネーブ）
③山根　和代
“History Education at Museums for Peace”、International NGO History Forum for Peace in East Asia、2009年8月21日、韓国（ソウル）Ducksung Women’s University
④山根　和代
“Japanese Efforts for Peace and Reconciliation through Peace Museums”、Asia Pacific Peace Research Association、2009年9月10日、台湾　National Dong Hwa University

〔図書〕（計 4 件）
①桂良太郎･安齋育郎･山根和代 他
“Museum for Peace:Past,Present and Future”、The Organizing Committee of The Sixth International Conference of Museums for Peace、2008年、231頁
②山根和代
“Museum for Peace Worldwide”、The Organizing Committee of the Sixth International Conference of Museums for Peace、2008年、89頁
③Kazuyo Yamane
”Grassroots Museums for Peace in Japan: Unknown Efforts for Peace and Reconciliation”
VDM in Germany、2009、341頁
④Kazuyo Yamane
“The Oxford International Encyclopedia of Peace” Volume 2, Editor in Chief: Nigel Young, Oxford University Press, “Japanese Peace Museums”, 2010, pp532-534

６．研究組織

(1)研究代表者
桂　良太郎（KATSURA RYOTARO）
立命館大学・国際関係学部･教授
研究者番号：50214359

(2)研究分担者
安齋　育郎（ANZAI IKURO）
立命館大学・国際関係学部・特任教授
研究者番号：40010045

山根　和代（YAMANE KAZUYO）
高知大学・人文学部・非常勤講師
研究者番号：30457410